



下野市立南河内第二中学校

平成29年度

第 11 号

# 校長室だより

H29.11.20

発行者

上野 保久

## 「夏椿祭」を終えて

『体育祭』が体育の祭典ならば、『夏椿祭』は文化の祭典と言えます。今年も、第二中らしい、創造性あふれる学校祭になりました。

何かを成すのに、ひとつのテーマを掲げて、知恵を出し合い取り組んでいく・・・そんな人間らしい姿、営み、そして、熱気が学校にはあります。学校行事は、まさに、集団での学びの真骨頂だと思います。

その中で培われるものは何でしょうか。「友情の大切さ・尊さ」、「団結（絆）することで発揮できる力の実感」、「仲間と挑むことによって湧き起こる勇気」、「もっとやれるかも知れないという自分への期待や希望」、「互いにわかり合える喜び」、「新たなものを創り上げる苦しみと達成感」、そして、「自分自身の発見」など、成長のための栄養分ともいえるべき要素をたくさん含んでいる体験やそこから生まれる感情が培われると思います。

学年だよりや、クラスで書かせた感想文等を読ませてもらいますと、それぞれが役割を持ち、しっかりと取り組んで成功した実感をもっているということや、学級の雰囲気よくなったこと、学年を越えての活動に充実感を得たこと、今年度の経験を生かして次年度への期待が膨らんだことなど、多くの生徒が『プラスの実感』をもったことがよくわかります。そして、いつもながら、そこに、ほのぼのとした温かさや祭りらしさを加えてくださる『ママカフェ』やパン販売活動、パトロール活動などのPTAの皆様のバックアップがありました。

このように、今年も3年生を中心に、だれもが主人公と言える「第二中らしい学校祭」になったと心から思いました。まさに、本校教育実践の目標に掲げた『ふれあいの喜びを実感する学級・学年・学校行事』の実現した姿でした。ご理解、ご協力、ほんとうにありがとうございました。



## お知らせ

○ 『夏椿祭』の昼食の販売について、売上利益が22,981円ありました。お知らせしましたとおり、特別支援学級の活動費に充て、有効に活用させていただきます。ご協力、ありがとうございました。

○ 『夏椿祭』の屋台村バザーにおいて、木工等販売の売上利益17,520円、小物販売売上利益20,840円がありました。この利益金は、生徒会の活動費として、各係から生徒会に寄贈されました。寄贈にあたりましては、11月15日の生徒会朝会で、木工販売代表生徒のI・Hさんおよび小物販売代表生徒のS・YさんからN・Y生徒会長に手渡されました。製作・販売担当のみなさん、ありがとうございました。

○ 本校吹奏楽部が市の社会福祉協議会からの依頼を受け、「しもつけふくしフェスタ」で演奏することになりました。

「オープニング」と「わくわくステージ」での演奏になります。お時間がございましたら、日頃の練習の成果をぜひともご覧いただきたいと思います。

・日時：11月25日（土）9：00～9：50

・場所：保健福祉センター「ゆうゆう館」 野外ステージ



©H29.11.20

## これはおすすめ私の一冊



### 『生きていてよかった』

相田 みつを (あいだみつを) 著 角川文庫 514円

数年前に、東京丸の内にある東京国際フォーラム内の『相田みつを美術館』で購入しました。心に大きく引っかかる言葉を独特の筆跡で表現する相田みつをの作品が大好きでした。

正しい道を理路整然と述べる言葉も素敵ですが、相田みつをのように、人間の弱さから来る悩みや自己嫌悪に陥りそうな場面を、「だってしょうがないよ、人間だもの」と、時にはユーモアを交えて表現する言葉もたいへん魅力的です。それぞれの言葉についてのコメントが本当にわかりやすく、今直面しているさまざまな難題を前に、溜飲が下がる思いです。

日々の生活を心穏やかにそして、明るく生きるヒントがたくさん詰まっていると思います。

### 雨の日には 雨の中を 風の日には 風の中を みつを

雨の日を、天気の良い日と比べて、「悪い日」だと思ふ、人間（自分）中心の考え方をやめること。

雨の日には、雨を、そのまま全面的に受け入れて、雨の中を雨と共に生きる。風の日には、風の中を、風といっしょに生きてゆく、という意味です。

つまり、特別なことではない、ごくあたりまえの生き方のことです。あたりまえだけれど、これは、常に前向きで、積極的に生きるということです。

そして、この場合の、雨や風は、次から次へと起きてくる人間の悩みや迷いのことです。(本文より)

## 校長室の窓から



- 「この頃、二中生の挨拶がとてもよくなりましたね。」10月18日(水)、来校したお客様からこのようなお言葉をいただきました。このお客様は、地域の方で、本校を卒業したお子様がいらした方でした。「校内でも、みんなさわやかに挨拶してくれますし、道ですれ違っても、挨拶してくれます。」と、好印象のようでした。

挨拶は、習慣です。全体に、よい習慣が定着しつつあるのだなと思いました。以前、生徒に「挨拶」について話したことがありました。挨拶は日常生活には欠かせない、人と人が気持ちよく生活できる言葉である。しかし、人には「理性」というものがあって、感情を表に出さないでいることが多い。つまり、何を考えているかわからない。だから、「私はあなたに悪意はありませんよ。」という意思表示が挨拶なのだ。挨拶をしないということは、「悪意がありますよ。」と言っているのと同じようにとられかねない。だから、「挨拶は先に！」を心がけてほしい。ただ、返ってこない時もあるかも知れない。もしも、挨拶したのに、相手が挨拶を返さなかったら・・・。「悪気はなかったんだよな。」「何か理由があったのだろう。」と思ってほしい。そういう時も現実に十分起こることだから。という話です。

この話が功を奏したということではありませんが、どうか、心おおらかに、広い心で、お互いが気持ちよく過ごすための、挨拶をこれからもしてほしいと思います。



- 清掃の時間は、私も“今日はどこを掃除しようかな”と思って掃除をしています。ゴミを拾ったり、落ち葉を掃き集めたり、校内で雑巾がけをしたり・・・先日も、落ち葉を掃き集め、コンテナをのせた一輪車を押していたら、生徒が近づいてきて、何かもじもじしています。言葉の端に「・・・片づけます。」という言葉が聞こえたので、ほうきとちりとりのことかなと思い、「片づけてくれるの?」と言ったら、「はい!」と元気に答えました。「ありがとう。助かるよ。」と言って渡しました。そういえば、いろいろな場面で、そういうことがありました。「校長先生、私が(僕が)持ちます。」ちょっと何か手助けをしたり、やり方が上手と褒めた時も、「ありがとうございます。」と、にこやかに返ってきます。

振り返って思うことですが、こういうことは、いったいどこで習うのでしょうか。家庭ででしょうか。学校ででしょうか。どこかで、だれかが言ったかやっただけなのでしょう。わかりません。ひとつだけ言えることは、環境がそうさせているということです。つくづく、人は環境によって変わるのだなと思いました。